

「海とさかなとわたしたち」をテーマに、海とさかなにかかわる「なぜ?」から生まれた研究・創作作品を募集した第41回「海とさかな」自由研究・作品コンクール。

2万9185点の個性あふれる応募作品から、入賞作品70点が決まりました。その中から、最優秀賞16作品と、学校・団体協力賞を紹介します。

詳しくは「海とさかな」自由研究・作品コンクールホームページをご覧ください (<https://www.umitosakana.com/>)

研究  
部門

文部科学大臣賞  
《自由研究》

喜多 恵子 東京都 青山学院初等部5年

**サワガニの働き方改革3**

【目次】

1.はじめに

①わがやのサワガニ

2022年の5月にサワガニを2匹もらいました。家族で夕ご飯を食べに行ったお店で、からあげになる直前にもらって帰りました。それから私の家で過ごしたのがこのサワガニ研究の始まりです。

2.働き方改革【その12】サワガニの冬眠2

3.働き方改革【その13】サワガニの子育て支援2  
(またも失敗)

4.働き方改革【その14】サワガニの身の守り方

5.働き方改革【その15】サワガニの住宅設計

6.まとめ

【事務局から】

素朴な疑問をもとに、調査研究の手順を踏んだ説得力のある研究が進んでいます。3年かけてもなお、よりよい飼育環境を目指したいというサワガニへの愛情、ていねいな向き合い方に心打たれる作品です。

【はじめに】

①わがやのサワガニ

2022年の5月にサワガニを2匹もらいました。家族で夕ご飯を食べに行ったお店で、からあげになる直前にもらって帰りました。それから私の家で過ごしたのがこのサワガニ研究の始まりです。

2.働き方改革【その12】サワガニの冬眠2

3.働き方改革【その13】サワガニの子育て支援2  
(またも失敗)

4.働き方改革【その14】サワガニの身の守り方

5.働き方改革【その15】サワガニの住宅設計

6.まとめ

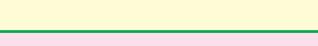
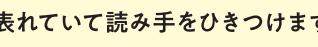
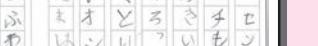
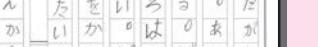
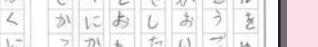
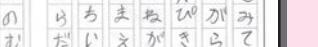
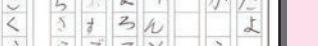
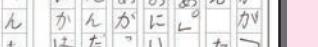
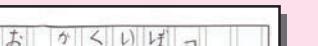
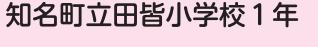
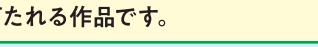
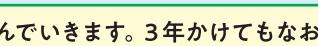
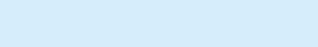
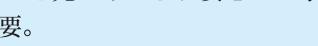
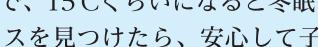
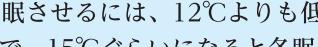
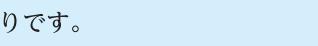
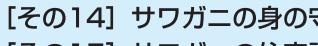
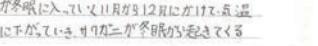
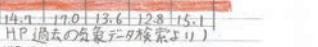
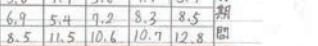
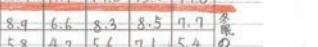
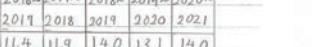
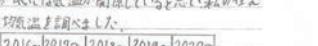
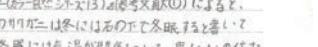
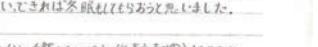
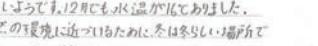
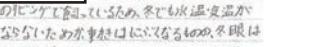
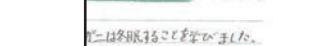
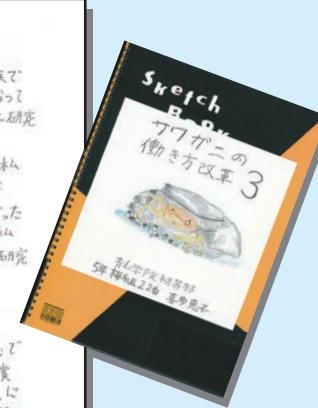
【日記】

①わがやのサワガニ

2022年5月16日

【まとめ】

【まとめ】





## 【応募作品の特徴】

引き続きコロナ禍で制限がかかる中、例年よりも生活範囲の中で発見したものなど身边にあるものを用いて創意工夫された作品が多くみられました。

海洋ゴミ問題やサンゴ・ウミガメが題材の環境に関連する作品が多数ある一方で、根強い人気のあった深海生物の作品が著しく減り、全体の傾向に大きな違いが出ました。

オンライン応募（個人応募限定）が今回で3回目となり、個人での応募数が順調に増えているのと同時に良い作品も増えてきました。

海外の作品も完成度の高いものが増えていて、絵画や絵本など、見ごたえのある作品が多数ありました。

## 【各部門の特徴】

### 研究部門

#### 《自由研究》

- 飼育しながらその生態を研究し、継続的に調べ続けた根気のある作品や、自身の住んでいる地元の海で出逢った生き物について様々な角度から調べた作品など、疑問に対して興味を持ち、意欲的に取り組んでいる様子が感じられました。
- SDGsを取り上げたものが数多くある中で、実体験を含む作品においては調べ学習のみでは得られない気づきなどがあり、説得力が感じられました。
- 寄生虫をテーマとしたものや海の湧昇流についてなど、幅広い着眼点のある個性的な研究もありました。

#### 《観察図》

- 「釣りをしていて釣れた」・「漁師のおじいちゃんが送ってくれた」・「スーパーでよく見かける」または「よく食べる大好きな食材」など身近な環境の中で興味を持った生き物をていねいに観察した作品が目立ちました。
- 今年から高学年の応募が対象に加わったこともあり、画用紙に書ききれないほどの量の発見や伝えたい思いがあふれ、密度のある濃い内容のものが多く見られました。
- 解説などをして細かく観察した図がメインというよりも、自由研究のような内容の作品も多々見受けられたので、観察図としての基本を踏まえつつ、どうまとめて一枚の紙に落とし込むかが今後の課題になりました。

#### 《工作（絵本）》

- 箱の中に海の風景を簡単に表現したものや生物の模型が大多数で、電気で動くものや漁業の様子を精巧な模型にしたような作品はほとんどありませんでした。
- 題材としてよく見るウツボやカジキなども、使う素材やどう動きを出すか・どういうストーリーが含まれているかで良くも悪くもなるので、何を作るかよりもどう作るかに重点を置いて、より良い作品を目指してほしいです。
- 絵本はストーリーがしっかりとしたり、絵本らしい言葉選びのものも多々あつたりして、全体的に完成度が高くなってきたようです。
- 環境問題や教育的要素のあるものをテーマとしても、そればかりが前面に出ず、うまく物語の中にとけ込ませて自然に読めるようなものも増えてきました。

### 創作部門

#### 《作文》

- 応募ガイドブックにSDGs関連が記載されているせいか、自分の体験を書いた作品であっても、最後に環境問題について調べたことをまとめとして終わる文章のものが多く、書き出しから終わりまでの間に視点がズレてしまっているものを多数見かけました。
- 低学年では楽しかった体験や感動したことを子どもらしく表現している作品も目立ちましたが、高学年は環境問題や研究的な内容・結論になりがちで、個性のある作品は少なかった印象です。

#### 《絵画》

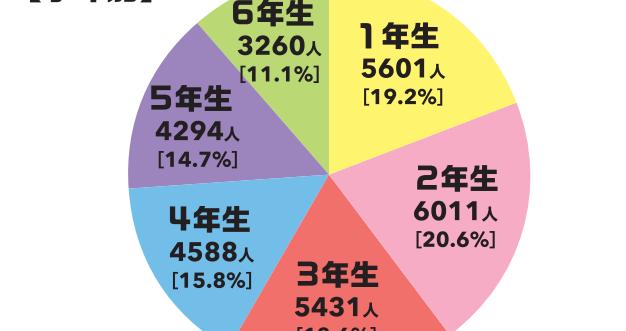
- タコ・カニ・ウミガメを描いた作品が圧倒的に多い中、アマミホシゾラフグやムラサキオカヤドカリなど珍しい生物を扱った作品もありました。魚を釣りあげている場面の絵も以前より多くなった印象です。
- 優秀な作品においては、考えられたレイアウトや丁寧な色塗り、表現したい世界観を表現する根気強さが伝わる作品が目立ちました。
- 低学年も年々技術的に上手な絵が増え、低学年らしい元気で力強い作品はあまり見られなくなりました。

## 【応募状況】(作品数)

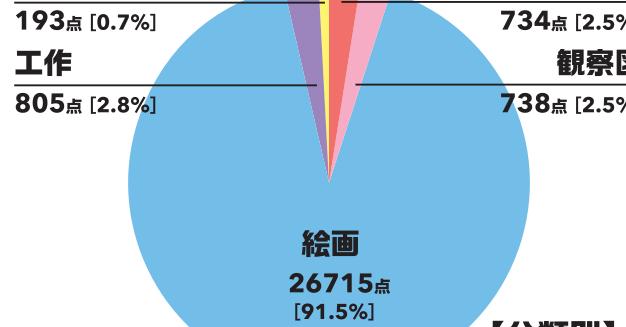
北海道	175	石川県	85	岡山県	1141
青森県	21	福井県	243	広島県	2852
岩手県	15	山梨県	463	山口県	48
宮城県	245	長野県	113	徳島県	404
秋田県	95	岐阜県	48	香川県	34
山形県	362	静岡県	768	愛媛県	183
福島県	246	愛知県	1185	高知県	253
茨城県	501	三重県	65	福岡県	1827
栃木県	173	滋賀県	475	佐賀県	132
群馬県	116	京都府	404	長崎県	2130
埼玉県	1445	大阪府	4327	熊本県	453
千葉県	537	兵庫県	814	大分県	43
東京都	1753	奈良県	504	宮崎県	201
神奈川県	2069	和歌山県	446	鹿児島県	670
新潟県	527	鳥取県	10	沖縄県	243
富山県	2	島根県	24	日本国外	315

合計 29,185 作品

## 【学年別】(人数)



## 【分類別】(作品数)



入賞作品70点

そのうち

最優秀賞16点

優秀賞54点

が決定しました。

\*「研究部門」「創作部門」最優秀賞入賞者には、賞状・盾、副賞として図書カード（5万円分）を贈呈。  
\*「研究部門」「創作部門」最優秀賞入賞者には、有名テーマパーク（千葉県浦安市）へ、ご招待いたします。（海外在住者のぞ）  
\*学校団体応募にて登録いただいた中から、応募作品数、ならびにその学校・団体における取り組みなどを審査し、事務局審査において推奨された50校・団体に、学校・団体協力賞として賞状と図書カード（2万円分）を贈呈いたします。

\*海岸にいる生物には漁業権が設定されている場合があります。  
採集をするときには必ず管轄の漁業協同組合にたすねましょう。

## 応募者全員に

「海とさかな博士号認定証」と  
「ニッスイクリアファイル」

贈呈！



## 学校・団体協力賞

- 茨城県／小美玉市立小川北義務教育学校
- 埼玉県／桶川市立日出谷小学校
- 川口市立元郷小学校
- 熊谷市立熊谷西小学校
- さいたま市立栄和小学校
- 千葉県／柏美術学院カルチャー教室かしひきっず
- 東京都／青山学院初等部
- 国立学園小学校
- 町田市立鶴間小学校
- 神奈川県／横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校
- 三浦市立初声小学校
- 新潟県／新潟市立結小学校
- 福井県／小浜市立雲浜小学校
- 福井市鶴小学校
- 山梨県／富士河口湖町立勝山小学校
- 富士河口湖町立船津小学校
- 静岡県／湖西市立新居小学校
- 湖西市立東小学校
- 愛知県／丹羽郡扶桑町立扶桑東小学校
- 豊川市立小坂井東小学校
- 豊田市立伊保小学校
- 大阪府／大阪狭山市立南第一小学校
- 大阪市立阿倍野小学校
- 大阪市立聖賢小学校
- 貝塚市立東小学校
- 堺市立東三国丘小学校

- 藤井寺市立道明寺東小学校
- 八尾市立大正小学校
- 八尾市立高美小学校
- 兵庫県／神戸市立伊川谷小学校
- 奈良県／奈良学園小学校
- 和歌山県／御坊市立湯川小学校
- 岡山県／岡山市立福浜小学校
- 広島県／東広島市立西条小学校
- 東広島市立平岩小学校
- 広島大学附属東雲小学校
- 福山市立駅家北小学校
- 福山市立坪生小学校
- 福山市立手城小学校
- 福山市立深津小学校
- 福山市立御幸小学校
- 愛媛県／新居浜市立金子小学校
- 高知県／土佐市立宇佐小学校
- 福岡県／北九州市立曾根小学校
- 長崎県／雲仙市立千々石第一小学校
- 南島原市立西有家小学校
- 長崎市立南陽小学校
- 鹿児島県／屋久島町立安房小学校
- 沖縄県／浦添市立牧港小学校
- 海外在住／シンガポール日本人学校
- 小学部クレメンティ校

## 最終審査会の先生方より



坂本 和弘〔審査委員長・前葛西臨海水族園 副園長〕

作文は難しいと言われてきましたが、今年は自分の言葉でいきいき表現した作品が選ばされました。研究は動機が大事。釣りや食など身近な出来事がきっかけとなって研究が増えているようで嬉しい思います。自分の五感をいかして取り組む素晴らしい作品が多くありました。



猿渡 敏郎〔東京大学大気海洋研究所 資源生態分野 助教〕

これだけの作品を作る小学生、ほんとに素晴らしいです。自分の思ったことを形にしようと思ってそれを完成させたということが、まず評価すべき点だと思っています。応募者全員を褒めたいと思います。



長谷川 裕康〔農林水産省 水産庁 増殖推進部 研究指導課 課長〕

今回初めて参加させていただきましたけれども、皆さんの魚、それから自然を愛するという気持ちがとても伝わってきました。新しい視点や新しい伝え方などが作品にたくさん入っていて、むしろ私が勉強させられました。



有本 淳〔文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 教科調査官〕

子どもたちが素朴な疑問を持ってそれを科学的に解決していくというこの流れが、各作品に表れていました。小学校で育成された力を、ぜひとも、こういった場で発揮してもらいたいなと思っています。



佐藤 孝子〔国立研究開発法人 海洋研究開発機構 地球情報科学技術センター シニアスタッフ〕

今年も大人がまったくかなわないような発想の作品を見ることができてすごく感心しました。自分の頭で考えて、自分の言葉でまとめるということが、いかに人に訴える力を持っているかということが改めてわかった審査会でした。



桑原 隆治〔国立研究開発法人 水産研究・教育機構 経営企画部 次長〕

調べ学習にとどまらず、ちゃんと観察して自分の手で発見した。何かを写すのではなく自分で調べて実践した。そのお子さんにとってはじめての感動が伝わってくる。そうした作品が選ばれたように思います。



神保 充〔日本水産学会・北里大学 海洋生命科学部 教授〕

観察図は絵をもっと大きく描いてほしいと思うところもありますが、見て感じたこと、触ったことなど、本当にわかったことが書かれていて内容も良くなっています。自由研究につながっていってくれればと思いながら審査をしました。



飛田 浩昭〔西武学園文理小学校 校長〕

子どもたちの研究テーマは多岐にわたって、こんな発想があるということを学びました。作品から長い時間をかけて努力をしている様子が見えてくるようです。特徴ある作品をもっと紹介していく機会を作れたらと思います。



森田 和良〔文京学院大学 人間学部 児童発達学科 特任教授〕

自由研究は成果が簡単にはできませんが、研究の過程を価値付けしていくことが非常に大事になってくると思います。また、研究中に「わかったこと」のその基準は何か、根拠をきちんと示すことで、より質の高い研究になると思います。



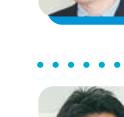
吉田 桂子〔株式会社ニッスイ コーポレートコミュニケーション部長〕

これからDXやシステムの教育がますますされていくこともあるかと思います。一方でこのコンクールは、実際に生き物に触れて感動して、子どもたちが感性や五感をいかして学び、表現する機会になっていたらと思います。



高山 裕喜〔朝日新聞社 科学みらい部 部長〕

作品の中にSDGsという言葉が自然に出てくるのが散見されて、子どもたちもそういうことを考えながら時代を見ているということをしみじみと感じました。今回選ばれなかった作品の中にもとても魅力的なものがいくつもありました。



清田 哲〔朝日学生新聞社 編集部 部長〕

3回目の審査ですが、これだけ差をつけづらいコンクールはありません。今回はより研究の視点が広がっていることを感じました。どの作品も子どもたちが最後まで作品をまとめる素晴らしい力を強く感じました。

## 特別審査員



五十嵐 美樹〔サイエンスエンターテイナー・ジャパン GEMS センター 特任研究員〕

海やさかなを私たちの社会からの視点で捉えて調査したり、不思議な生態そのものに着目したり、皆様の着眼点のオリジナリティに大変感激しました。「なぜ?」と思ったことを大切にして実際に調査したり、実験したりと行動したことが本当に素晴らしいことだと思います。また、調べた結果を人々に「伝わる」ようにするにはその人なりの表現が求めらますが、絵や写真、レイアウト、文章のテキストなどに大変多くの工夫が見られた点も心